

「そろそろ終わりにします  
私も暇ではありませんので  
ふんっ!」





「うっ、貴様、何をした？」





「やめて、放しなさい!」





「その魂を最高の状態に高めて  
から、御神へ捧げることにしま  
す。ふんっ!」





バッ!

「わっ!？」










(体が動かない...)  
「放しなさい!」





「卑怯だぞ、キサマ!  
放しやがれ!!」





「おっと、凜とした処女が  
そのような言葉使い  
良くありませんね  
これから  
快楽を与えて差し上げます」





「何をするつもり、やめて!」





「あっ!!」









「あああ!」






「あああ！」





「うっう…もうやめろ!」





「まだ刺激が足りませんか？  
焦らないでください  
本格的に気持ち良くなるのは  
これからですから」





(これから、もっと…)













「ああ、ああ…」





「あっ、あああ…」





「そろそろ、蜜が溢れてきた頃  
でしょうか？さあ  
足を広げて見せてください」





「やめなさい、この変態!」





**「キサマ!  
絶対に、ぶっ殺す!!」**






(足が、勝手に開いていく)  
「お願い、やめて!」





(なっ、足が開く...)  
「やめろお!」





「足を大きく開いてください  
見せて頂きましょう  
穢れの知らない  
処女の女性器を、フフフ…」